



第2巻  
第11号

平成24年6月22日

**JASWHS** 公益社団法人 日本医療社会福祉協会  
Japanese Association of Social Workers in Health Services

## 東日本大震災 MSW災害支援ニュース



群馬県前橋市の赤城白樺牧場

### 目次

1. 災害対策本部からのお知らせ
2. 現地支援活動報告①②③④
3. 事務所・現地感想文

## 災害対策本部からのお知らせ

### 協力員募集！！

引き続き協力員を募集しています。

＜現地＞現地の業務状況を鑑み、当面は制限なく受け入れを行います。

中3日以上・なるべく平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害対策本部までお気軽にご相談ください。

特に、6月の最終週（6月24日～30日）は、1人も応募がありません。

7月、8月についてもまだまだ空いております

＜事務所＞平日のみの活動ですが、1～2ヶ月に1回でも構いません。

皆様のご協力をお願いいたします。

### 次回災害対策本部会議について

次回は7月21日（土）18:00～協会事務所にて開催します。

ご意見や検討事項がありましたら、**7月18日（水）までに**災害対策本部まで、電話やメールでお寄せ下さい。

### 書籍販売のご案内

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトン1』の販売を行なっています。

発災から9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録をまとめました。ぜひご覧になってください。  
尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。下記よりダウンロードしてください。

URL：[http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)



### Facebookでも情報をお伝えしています！



現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。  
応援よろしく願いいたします。

-Facebook URL-

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

## 現地・事務所職員募集！！

災害対策本部では現地・事務所職員を随時募集しています。

災害支援に関心のある方からのご応募をお待ちしております。

または周りでご興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介下さい。

### (1) 現地常駐者（短期契約職員）

- ・就業場所：宮城県石巻市大街道北
- ・就業時間：9～17時
- ・休日：土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・基本給 250,000 円/月 通勤費は実費支給
- ・社会保険加入
- ・医療ソーシャルワーカー業務経験必須
- ・長期の方優遇

### (2) 災害対策本部事務所担当（パート職員）

- ・就業場所：協会事務局内
- ・就業時間：週4日程度 10～17時
- ・休日：土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・時給 900 円～ 通勤費は実費支給
- ・経験不問、医療ソーシャルワーカー業務経験者優遇

ご応募の方は下記宛に履歴書をお送り下さい。面接にて決定させていただきます。

または災害対策本部までお気軽にお問い合わせ下さい。

〒162-0065 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル

TEL：03-5366-1057 担当：笹岡・中川

## 現地支援活動報告①

定本 一美（大阪府）

期間：5月17日～5月19日

今回初めて参加させて頂きました。

活動内容は、仮設住宅で定期的に行われる茶話会や現地で活動しているボランティア団体の会議参加や在宅避難世帯へのフォロー電話をしました。茶話会では、被災者の方々は被災当日の出来事を話してくださり、私は想像もできない出来事に、言葉にならずにただ頷くばかりでした。また、フォロー電話をかけていて、特に半島に住んでいる被災者の方々からは、1年たっても道路が復旧せずに不便を感じていること、市内まで出ないと仕事がないことなど生の声として教えて頂きました。

現地に行くまではテレビ等のメディアを通してでしか被災地のことは知らず、どこか遠い場所で起こったことのように感じていました。しかし、今回参加させて頂く機会を頂き、今回の震災に対して向き合い方が変わったように自分自身感じています。このような貴重な活動に参加し勉強させて頂いたことに、大変感謝をしています。

現地に行くまでは、行ってもいいのかと不安がありました。しかし、被災者の方々からは「来てくれてありがとう」や「また来てね」という言葉をかけて頂き、参加できてよかったと強く思いました。もし参加するか迷っているのなら、ぜひ参加して欲しいです。

## 現地支援活動報告②

富永 千晶（神奈川県 大倉山記念病院）

期間：6月7日～6月9日

今回は、在宅避難者支援のみの活動であった。石巻医療圏健康・生活復興協議会の事務所である「在宅被災世帯サポートセンター」にて、第1期の在宅被災者のフォローアップを行った。また、第2期フォロー者の緊急介入依頼もあった。

前回の活動が、1年の節目である時期（3月）であったこともあり、フォローする方々の電話や訪問の話の中で当時の話が出ていたのが印象に残っていた。しかし、今回はあまり当時の話をする方はいなかったが、二極化している？という言い方は不自然かもしれないが、生活復興に奮闘している方のストレスフォローと、生活自体の支援を必要としている方々のフォローがあったように感じた。

そして前回と違うことと言えば、「在宅被災世帯サポートセンター」の専用の事務所で活動することで、他職種（事務局、調査班など）との交流や相談などの情報交流があり、チームで行っていることが実感できたことが大きな収穫であったと思う。また、前回継続としていた数件のケース対応をすることで、現地での生活の変化やサポートの難しさを肌で感じることもできた。たかだか2泊3日の活動で、なにができるのか？前回同様、ジレンマを感じる。しかし、今ここで…その場にいる…ことが大切ではないかと思うようにしている。現地に常駐してくださるソーシャルワーカーの仲間や、同じ時期に活動を共にするソーシャルワーカーやそのほかのスタッフとの会話に、援助者としての原点に戻らせてもらっているのだと感謝の気持ちでいっぱいになる。

神奈川県医療社会事業協会より初めての派遣を行えたことは、本当にうれしく思う。この派遣が長く続くように「神奈川県医療社会事業協会・災害支援プロジェクト」の一員として、現地に行く会員のサポートを頑張りたいと思う。

## 現地支援活動報告③

香島 学（神奈川県 ヴィラキズナ）

期間：6月7日～6月9日

現地で2期調査も始まり、フォロー電話や訪問等貴重な経験をする事ができました。今回までに石巻で活動をされた仲間や、石巻医療圏生活・健康復興協議会の方々が繋いで来られたバトンを私が受けとれ武山様を始めとした依光様・中辻様の現地事務所の方々には様々なことを学ばせて頂きました。ソーシャルワーカーとしての本質を改めて考えさせられ、自分自身を見つめ直す意味でも大変貴重な時間であったと思います。ありがとうございました。

活動中に被災者の方より話を聴くことができました。聴いていた私達でさえ大変な辛さを覚える内容でしたが、お話し頂いた方の辛さは図り知れないものであったと思います。でも「3.11を知らない世代まで語り継ぐことが必要」と、今回の話で命の大切さをより痛感しました。

石巻の空・海・山・川…どれも誇れるものだと思います。私が立ち寄った商店街で「この地が好き」と言われた被災者の方がいました。被災者と共に我々ができることは何なのかをもう一度考え、3.11前の皆さんが愛してやまない石巻の生活に戻れるよう私も微力ながら引き続き参加させて頂きたいと思います。

最後に私的感想を。今回家族や仲間の大切さと絆の重さを改めて感じさせられました。

本当に貴重な時間をありがとうございました。感謝申し上げます。

現地には心強い先輩や仲間がいます。自分にできることは限られています。でもそれが石巻や自分自身の糧になると思います。是非石巻に一步踏み入れてください。

## 現地支援活動報告④

岡 知子 (高知県 細木ユニティ病院)

期間：6月11日～6月13日

今回初めて、現地協力員として参加させて頂きました。

3日間の短い期間でしたが、内容としては継続フォローケースへの電話、災害復興支援協議会情報交換会や仮設住宅での栄養相談会への参加、「医療ソーシャルワーカーの支援のバトンI」を各関係機関へ配布し挨拶を行いました。また上記の合間に、各仮設住宅や遊楽館、門脇町～女川町など海岸地域にも足を運びました。この1年間、マスメディアを通して被災地の情報を得ていましたが、大災害の爪痕を目の当たりにした時は言葉が出ず、ただただ無力感でいっぱいになりました。特に被害の大きかった海岸地域は、今でも街の至る所に瓦礫が山積しています。震災前、ここには子どもたちの遊ぶ声、学生、仕事に励む人の姿、いろんな人々の声や日常の音で溢れていたはずです。何気ない日常が、たった1日で奪われてしまったことの恐ろしさを痛感しました。

しかし被災地は、着実に復興への道を歩んでいます。鳥の鳴き声、車の走る音、人の声、姿があり、人々の動きが感じられるようになっていました。私は、日常の音、生活を取り戻すにつれて、人々の関心が薄れ、やがて「風化」してしまう日が来るように感じました。街は復興に近づいていても、家族や家、仕事などの生活基盤を失った方々が、元の生活に近い状態にまで回復し、心から感じられる復興がいつなのかは別問題です。今後何度でも起こりうる天災。自然と共存しながら生きていく私たちは、風化ではなく、この教訓を活かし深めていかなければなりません。

最後に「百聞は一見にしかず。されど、百見は一行にしかず。」という言葉 皆さんに贈りたいです。本協会の活動は全国のSWによりこの支援のバトンリレーが成り立っていること、そこには職種の垣根を越えて尽力されている方々の姿があり、人は様々なかたちで「つながっている」ということを体感しました。このバトンリレーは、百回聞くより1回見た方が良いですし、百回見るより1回体験した方が良いです。現地協力員として参加させて頂いたことは、私にとって何よりの財産です。今後、活動を考えられている皆さんにとっても、目の前の体験に勝る財産はないと思います。



商店街に張られていた一枚の紙

## 現地感想文

6月12日（火）

高知県グループ、中本理事が、精力的にあいさつして回ってくださっています。お土産は当然の「支援のバトンI」。皆さん引き込まれて読んで下さいます。

6月13日（水）

今日は活動中にTV取材が2件。どちらも地元民放局・報道です。ひとつは協議会の活動を紹介するものでした。現状在宅調査では調査拒否が半分程度あり、調査員の方々の神経がすり減る原因のひとつです。こうした報道でもっと市民に調査活動が浸透すれば、拒否も減り、いっそう市民の方々に行き届く支援が可能になり、同時に調査員の方々の負担も軽減されるはずです。そんな思いで協議会では取材を積極的に受けているそうです。

6月14日（木）

にぎやかで忙しい一日でした。大阪グループほか、2班に分かれて、それぞれに活躍。夕方遅くまで、会議に参加。白熱した論議がつい長引きました。今夜は、6人の宿泊者が健康な寝息を立てています。

6月15日（金）

今日は大阪からの協力員お二人が訪問面接へ。が、一件訪問先が見つからず迷った末に帰所。訪問調査の住宅地図にもなく皆で頭をひねりながら確認すると、調査原票で正しい住所が判明。まあこんな時もあります。明日は再度、訪問下さるそうです。

6月16日（土）

郵便受けに、市の広報紙と一緒に1枚のチラシが。

「とにかく にげっぺ！」地震・津波避難訓練、7月8日（日）実施のお知らせです。第一に高台へ、高台がないなら避難所へ避難、と書いてありますが、至近の避難所は・・・？なんと私は未確認でした。この際きちんと避難路を確認し、災害時の行動について考えておきたいと思います。

## 事務所感想文

6月15日（金）

尾方（西群馬病院）

2週間ぶりに来させて頂き、現地ボランティアの方々が増えていたのに驚きました。少しずつ覚え、お役にたてたならと思いますが、なかなか・・・。